資料７

平成２７年度８０２０運動推進特別事業 事業報告

１ 事業目的

大阪府内における大学・短大・専修学校（以下「学校」とする）における保健担当者を「歯と口の健康サポーター」として養成し、「歯と口の健康サポーター」が学校において、学生に対し歯科口腔保健の重要性について意識づけを行うことにより、学生の歯科口腔保健の意識向上を図る。

２ 事業結果

2-1 歯と口の健康リーダー連絡調整会議の実施

平成 27 年度事業の実施に当たり、歯と口の健康リーダー（地域における公衆衛生事業の中心的役割を担う歯科医師）と有識者（歯と口の健康サポーター養成プログラム検討委員）の間で、歯と口の健康リーダー連絡調整会議を行った。

○「歯と口の健康リーダー連絡調整会議」概要

【開催日時】平成 27 年 10 月 6 日（火）16 時 30 分～18 時 00 分

【開催場所】大阪府歯科医師会

【協議・説明内容】

（１）平成 27 年度事業実施について

（２）歯と口の健康サポーター養成研修会について

【講師】　大阪府歯科医師会理事　山上　博史

・「歯と口の健康サポーター手引き」の使用方法

・「学生に対する普及啓発用媒体」の使用方法

・「歯と口の健康サポーター養成研修会」の開催方法

・歯科口腔保健の重要性についての動機づけの方法

・事業施設実施地域の選定（特定の地域に偏ることがないよう取り組む）

・その他、事業実施に関わる事項

【参加者】20 名

（参加地区：サポーター養成研修会実施地区 9 名、周知広報実施地区 11 名）

（３）歯と口の健康リーダーによる学校への普及啓発と実態調査について

（４）その他

2-2 歯と口の健康サポーター養成研修会 実施

「歯と口の健康リーダー」が中心となり、「歯と口の健康サポーター養成研修会資料」（平成 26 年度事業作成資料）を活用し、大学・短期大学・専修学校における保健担当者等に対し、学校において「学生に対し歯科口腔保健の重要性について意識づけ」を行うための取り組みを行う「歯と口の健康サポーター」として育成するための研修会を、地域において合計４回行った。

平成 26 年度に周知広報・実態調査を行った学校に、研修会への参加を呼びかけた。研修会への参加校は合計で 16 校、参加者は合計で 20 名であった。

【研修会内容】

・学校における歯と口の健康づくりの意義について（講義形式）

・歯と口の健康づくりに関する基礎知識（講義形式）

・歯と口の健康づくりに関する意識向上について（ワークショップ形式）

（１）地域における「歯と口の健康サポーター養成研修会」実施状況

(ア)圏域名：大阪市

【開催日時】平成 27 年 11 月 12 日（木）13 時～14 時 30 分

【開催場所】ホテル阪神

【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

福島区歯科医師会地区代表者　垣内　康弘

福島区歯科医師会副地区代表者　藤井　章司

【参加者】２名

【参加校】２校

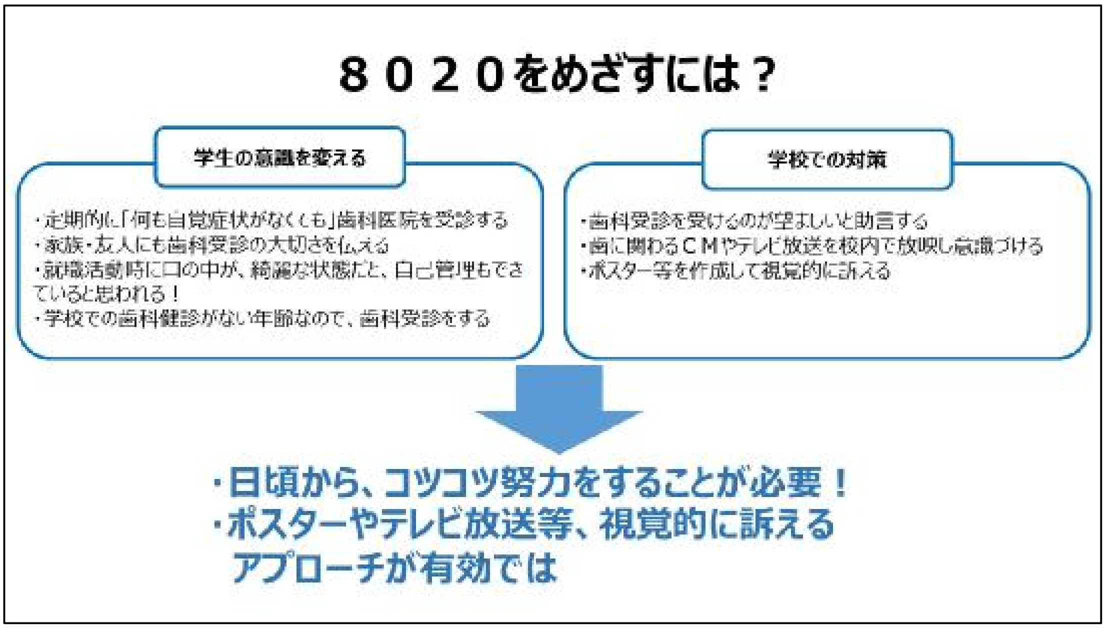
【研修会の進行表】

本日の進行

13：00~13：05	開会　あいさつ
13：05~13：10	参加者等の紹介
13：10~13：20	事業説明１　本事業実施背景と大学・短期大学・専修学校における歯と口の健康づくりの意義について
13：20~13：30	事前説明２　歯と口の健康づくりの基礎知識
13：30~13：35	事業説明３　ワークショップの進め方と本日のテーマについて
13：35~14：00	グループでの話し合い
14：00~14：10	発表
14：10~14：20	評価・質疑応答・まとめ
14：20~14：30	アンケート記入
14：30	閉会

【グループワークのテーマと結論】

テーマ：８０２０をめざすにはどうしたらいいか。



(イ)圏域名：南河内

【開催日時】平成 27 年 11 月 26 日（木）15 時～17 時

【開催場所】LIC はびきの

【研修会講師（ファシリテーター)】（順不同・敬称略）

羽曳野市歯科医師会地区代表者　山本　明平

羽曳野市歯科医師会顧問　竹田　幸弘

【参加者】５名

【参加校】３校

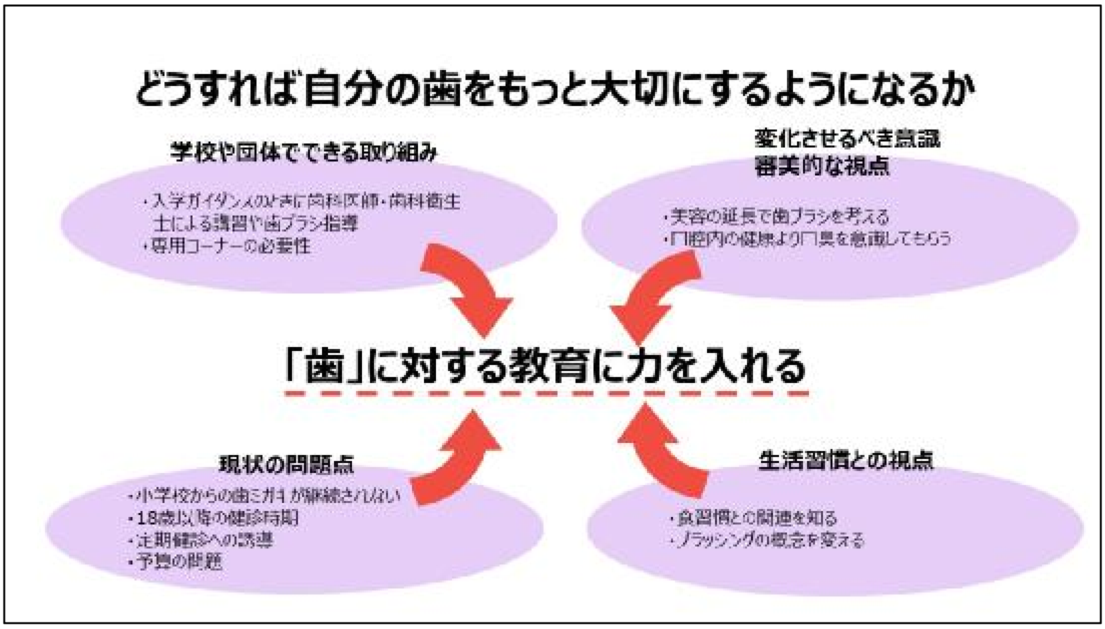
【研修会の進行表】

本日の進行

15：00~15：05	開会　あいさつ
15：05~15：15	事前説明１　本事業実施背景と大学・短期大学・専修学校における歯と口の健康づくりの意義について
15：15~15：40	事業説明２　歯と口の健康づくりの基礎知識と本日のテーマ
15：40~15：45	事前説明３　ワークショップの進め方
15：45~15：50	トイレ休憩
15：50~16：00	アイスブレーク（席替え、自己紹介）
16：00~16：40	グループディスカッション
16：40~16：50	発表
16：50~16：55	質疑応答、まとめ
16：55~17：00	アンケート記入
17：00	閉会

【グループワークのテーマと結論】

テーマ：どうすれば自分の歯をもっと大切にするようになるか。



(ウ)圏域名：堺市

【開催日時】平成 27 年 12 月 3 日（木）15 時～17 時

【開催場所】堺市口腔保健センター新館

【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

堺市歯科医師会常務理事	山上　博史
堺市歯科医師会理事	吉田　剛
堺市歯科医師会理事	髙安　勇輝

【参加者】９名

【参加校】７校

【研修会の進行表】

本日の進行

15：00~15：04	開会　あいさつ
15：05~15：15	事業説明１　本事業実施背景と大学・短期大学・専修学校における歯と口の健康づくりの意義について
15：15~15：40	事業説明２　歯と口の健康づくりの基礎知識と本日のテーマ
15：40~15：45	事業説明３　ワークショップの進め方について
15：45~15：50	トイレ休憩
15：50~16：00	アイスブレイク（席替え、自己紹介）
16：00~16：40	グループディスカッション
16：40~16：50	グループごとの発表
16：50~16：55	質疑応答
16：55~17：00	アンケート記入
17：00	閉会

【グループワークのテーマと結論】
＜Ａグループ＞テーマ：８０２０をめざすにはどうすれば良いか

８０２０をめざすにはどうすれば良いか

設定

・大阪の大学４回生、女性
・広島で就職が決まっている
・最近口臭が気になり、左奥の歯茎が重く腫れぼったい
・右側で噛むと歯がしみる
・あわてて一生懸命歯磨きすると歯ブラシに血がついた
・歯にものが詰まりやすく口も開けにくい
・卒業写真撮影、海外での学会、卒業旅行などの予定が目白押し
・歯科医院へ行く時間が中々とれない

学生の現状

・歯科受診をする機会が少ない
・自分の歯の健康に関心が薄い
・痛みや異物感が少しあっても何日かでなくなるため、痛みもしくは異物感が強く出るまで「歯科」というものが頭から抜けている
・「これくらいなら」という甘い考えがある
・生活習慣に関して注意する人がいない
・ややこしいことは後回し
・歯磨きが不十分
・就職活動やサークル活動で多忙
・高校までは親から歯医者へ定期的に行くよう言われていたが大学になってからはそれがなくなった

対　策

・目で見て分かる媒体で、歯を大切にしないケースと大切にしたケースの両方を伝える
・学生に対する歯科保健活動についての強化
・定期的な歯科受診
・無料検診などを活用するように促す
・大学などで相談窓口を利用するように促す
・丁寧な歯ブラシ、生活習慣
・年頃の女子大生が関心を持つようなしかけをつくる。ＴＶのＣＭやＳＮＳを使い広報
・予防歯科の知識
・色つきの試薬など実感しやすいもの

若いときから歯科医院へ通うようにする！

＜Ｂグループ＞テーマ：どうすれば自分の歯を大切にするようになるか

どうすれば自分の歯を大切にするようになるか

設定

・大阪の大学４回生、女性
・広島で就職が決まっている
・最近口臭が気になり、左奥の歯茎が重く腫れぼったい
・右側で噛むと歯がしみる
・あわてて一生懸命歯磨きすると歯ブラシに血がついた
・歯にものが詰まりやすく口も開けにくい
・卒業写真撮影、海外での学会、卒業旅行などの予定が目白押し
・歯科医院へ行く時間が中々とれない

原因と対策

行動面

・指導を受けることへの理解を深める
・時間は自分で作る
・不規則な生活
・海外に行く前に治療しておいたほうが良い
・定期的な受診の継続が困難
・生活は規則正しく
・口臭があるのに気にならなかったのか
・卒論制作などで夜遅くまでおきていることが多く間食が多かった
・歯磨きの習慣が少なかった
・歯茎が痩せてきた
・広島での継続受診
・就職等の新しい環境になることでストレスを感じ口腔環境が悪化しやすい
・かかりつけ歯科を決めて治療する
・分かっていても現在の生活に影響がないと放置する

知識面

・歯の健康が将来の生活に影響を与えること（妊娠・出産・育児への影響）
・正しいブラッシング方法を知らない
・口腔の環境が美容に影響することを伝える
・正しいブラッシングで口臭・出血はある程度改善
・歯のことは病気だと思っていない
・どうしたらこんな状態にならないのか
・日ごろからメンテナンスが必要だと知る
・このまま放置した場合に将来どうなるかを知る
・歯がなくなることの全身への影響を知る
・情報を与える
・健康意識が低い
・教育の充実
・自覚があれば何かあると知ること
・電話相談や夜間も診療している歯科を知らない

◎生活・行動改善が必要

・歯の健康に対する知識を持つ
・行政や歯科医師会による情報発信を行う
・インターネット社会を活用する

(エ)圏域名：大阪市
【開催日時】平成 27 年 12 月 3 日（木）15 時～17 時
【開催場所】大阪北区歯科医師会 事務所
【研修会講師（ファシリテーター)】(順不同・敬称略)

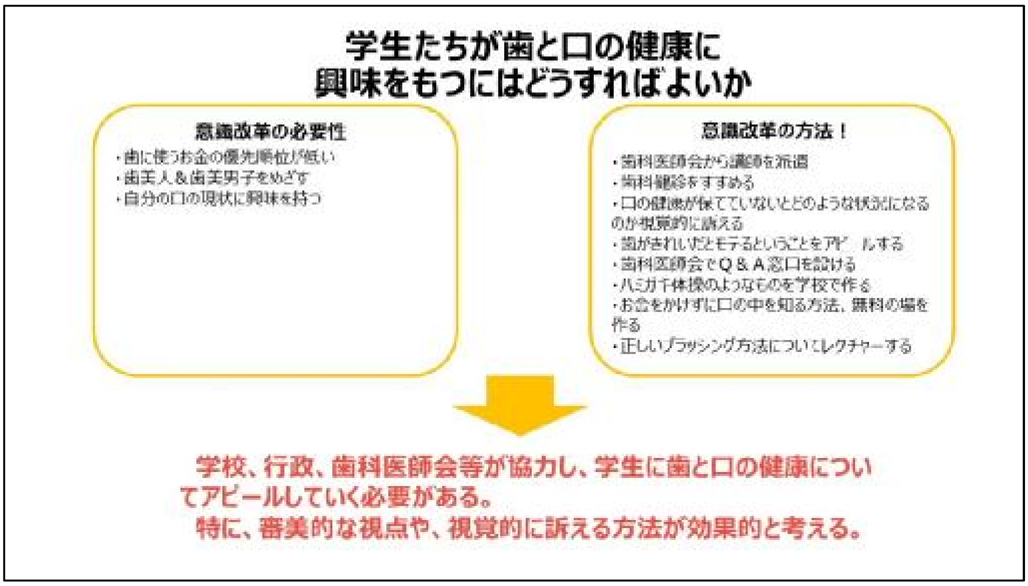
大阪北区歯科医師会常務理事	樋口　春彦
大阪北区歯科医師会	水沼　武史

【参加者】４名
【参加校】４校
【研修会の進行表】

本 日 の 進 行

15：00~15：04	開会 あいさつ
15：05~15：15	事業説明１　本事業実施背景と歯と口の健康づくりの意義
15：15~15：40	事業説明２　歯と口の健康づくりの基礎知識と本日のテーマ
15：40~15：45	休憩
15：45~15：50	事前説明３　ワ クショップの進め方について
15：50~16：00	アイスブレイク 自己紹介
16：00~16：40	グループディスカッション
16：40~16：50	質疑応答
16：50~16：55	アンケ ト記入
17：00	閉会

【グループワークのテーマと結論】
テーマ：学生たちが歯と口の健康に興味をもつにはどうすればよいか。



（２）「歯と口の健康サポーター養成研修会」研修会後のアンケート調査結果

表１　学校における歯と口の健康づくりに関する取り組み

取組み	校数	（%）
実施	6	37.5
未実施	10	62.5
合計	16	100.0

表２　平成 26 年度学校で実施した歯と口の健康づくりの取り組みの詳細

（複数回答可）

実施した取り組み	回答数	（%）
歯科の定期健康診断	0	0.0
歯科の健康相談	1	14.3
学校行事を利用しての歯科普及啓発イベント	4	57.1
その他	2	28.6
合計	7	100.0

表３　研修内容を事前に知っていたか

知識の有無	人数	（%）
ほとんど知っていた	3	15.0
ある程度知っていた	9	45.0
知らないことが多かった	4	20.0
ほとんど初めて知った	4	20.0
合計	20	100.0

表４　研修会や手引書の内容以外で知りたいこと

- 歯を健康に保つ方法
- 食事・飲料との関連性。水ですすがないハミガキ方法、ブラッシング方法
- 自分の歯の健康としての知識やケアの方法等についての内容

表５　研修による学校での歯科口腔保健の普及啓発の重要性

重要性の認識	人数	（%）
認識した	20	100.0
認識しなかった	0	0.0
合計	20	100.0

表６　普及啓発媒体（クリアファイル）の効果的な活用方法について

（複数回答可）

配布場所	回答数	（%）
一般定期健康診断	5	25.0
就職説明会	1	5.0
講義	12	60.0
その他	4	20.0
全体	20	

表７　学生に対する普及啓発媒体に関する意見

- ・クリアファイル・ポスターはすごくいいと思う
- ・エントリーシートデザインは学生にぴったりで口腔ケアの意識付けになると思う
- ・学生用としては内容が難しいと思う
- ・クリアファイルは学生がよく使うので、目につきやすく良いと思う
- ・もう少し学生の印象に残るものの方が良いと思う
- ・歯の健康教育の機会をつくり、教育することが必要
- ・セルフチェック項目は学生に役立っている

表８　今後の学校での歯科口腔保健に関する取り組みが実施出来るかについて

取り組みの実施	人数	（%）
可能	16	80.0
不可能	4	20.0
合計	20	100.0

表９　今後の学校での歯科口腔保健に関する取り組みについて

検討できそうな取り組み	校数	（%）
普及啓発の機会増加	11	68.8
行事等での啓発コーナーの設置	4	25.0
大学独自のネット配信	1	6.3
合計	16	100.0

2-3 歯と口の健康リーダーによる学校への周知広報と実態調査

大阪府における８地域の二次医療圏のうち、平成 27 年度は豊能医療圏と三島医療圏に所在する大学・短大・専修学校に対して、「歯と口の健康リーダー」が大学・短大・専修学校（合計 24 校）に赴き、周知広報及び実態調査を行った。

また、併せて平成 28 年度に実施予定の「歯と口の健康サポーター養成研修会」への参加を促した。

（１） 周知広報

【周知事項】

・「歯と口の健康サポーター手引き」の使用方法

・「学生に対する普及啓発用媒体」の使用方法

（２）実態調査

【調査項目】

・学校における保健担当者の有無及び職種

・学校での歯科健診実施状況

・その他、必要な事項

【実態調査結果】

表 10　学校における保健担当者配置の認識の有無

認識	学校数	(%)
有	17	70.8
無	7	29.2
合計	24	100.0

表 11　保健担当者の職種別配置状況（複数回答可）

配置職種	全体		（内）大学		（内）短大		（内）専修学校	
	学校数	(%)	学校数	(%)	学校数	(%)	学校数	(%)
医師	12	92.3	8	100.0	1	50.0	3	100.0
看護師	14	107.7	8	100.0	3	150.0	3	100.0
保健師	9	69.2	7	87.5	2	100.0	0	0.0
その他	3	23.1	1	12.5	1	50.0	0	0.0
全体	13		12		3		3	

表 12　「歯と口の健康リーダー」の周知に対する学校保健担当者の反応

設置	学校数	(%)
良い	18	75.0
普通	5	20.8
悪い	1	4.2
合計	24	100.0

表 13　学校での歯科健診実施状況

歯科健診	学校数	(%)
有	0	0.0
無	24	100.0
合計	24	100.0

2-4　学生に対する歯と口の健康づくり意識調査の実施

事業評価に当たり、経年的に学生の変化を調査するため、アンケート調査を実施した。

表 14　学生の所属

学科	学年（人）				小計
	1年	2年	3年	4年	
養護保健学科	54	29	0	0	83
医療秘書学科	40	54	0	0	94
歯科衛生学科	0	119	109	0	228
保育学科	112	108	0	0	220
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科	0	49	73	0	122
健康科学学科	0	73	60	56	189
合　計	206	432	242	56	936

表 15　毎日の歯みがきの頻度

頻度	人数	(%)
1日4回以上	5	0.5
1日3回	187	20.0
1日2回	688	73.6
1日1回	55	5.9
総計	935	100.0

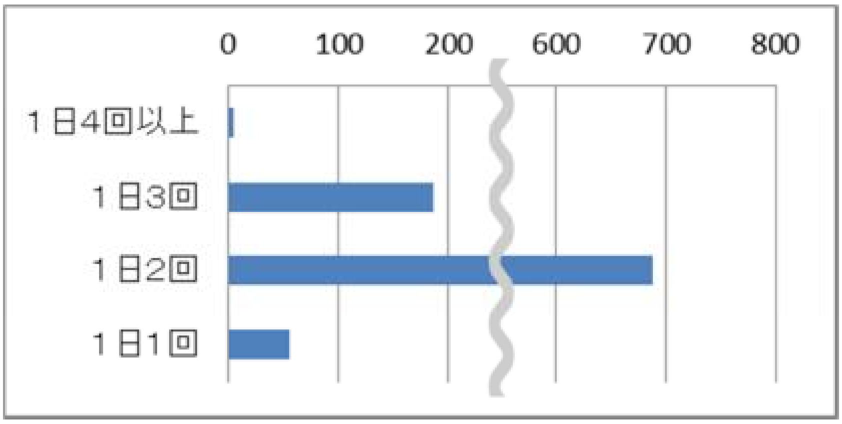


図１　毎日の歯みがきの頻度（人）

表 16　日常的に使用している口腔衛生用品

頻度	人数	(%)
歯ブラシ	908	97.0
電動歯ブラシ	34	3.6
歯磨剤	380	40.6
液体ハミガキ	53	5.7
洗口液	59	6.3
歯間ブラシ	71	7.6
デンタルフロス	60	6.4
舌ブラシ	33	3.5
その他	3	0.3
特になし	1	0.1
全　体	1602	

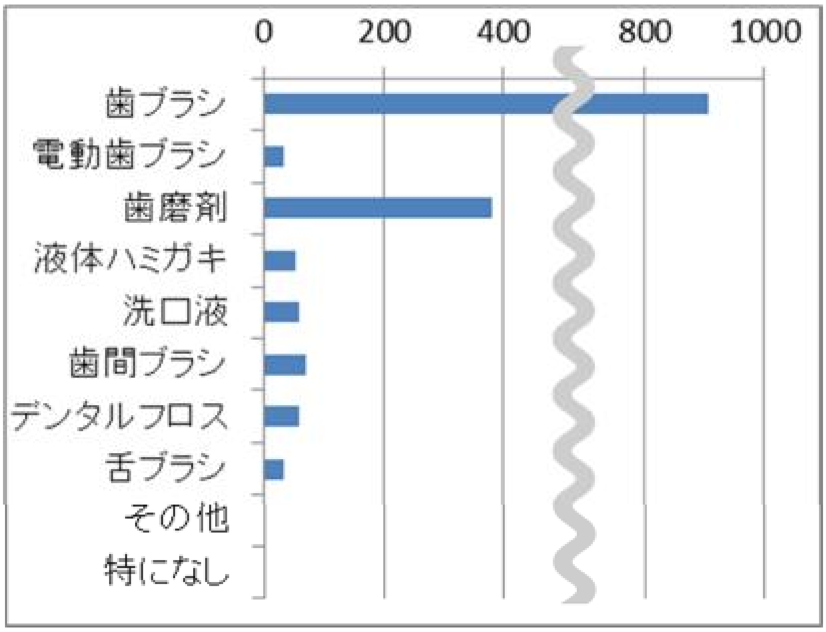


図２　日常的に使用している口腔衛生用品

表 17　口に関することで気になること

内容	人数	(%)
むし歯	356	38.0
知覚過敏	156	16.7
親知らず	176	18.8
口臭	196	20.9
顎の関節	146	15.6
歯並び	328	35.0
歯の着色	281	30.0
歯と歯の間に食べ物が挟まる	129	13.8
歯ぐきの状態	145	15.5
その他	15	1.6
特になし	132	14.1
全体	2060	

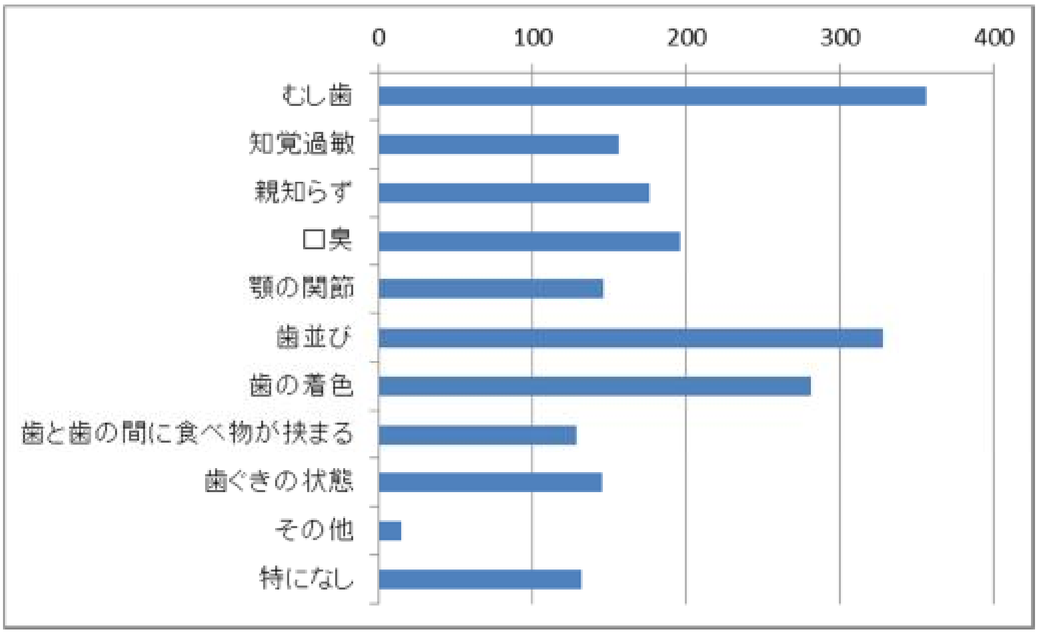


図３　口に関することで気になること（人）

表 18　歯ぐきの状態について当てはまる症状

あてはまる症状	人数	(%)
歯ぐきが腫れている	87	30.0
歯を磨いたときに血が出る	150	51.7
歯ぐきが下がって歯の根が出ている	32	11.0
歯ぐきを押すと膿が出る	2	0.6
歯がぐらぐらする	10	3.4
その他	9	3.1
全　体	290	

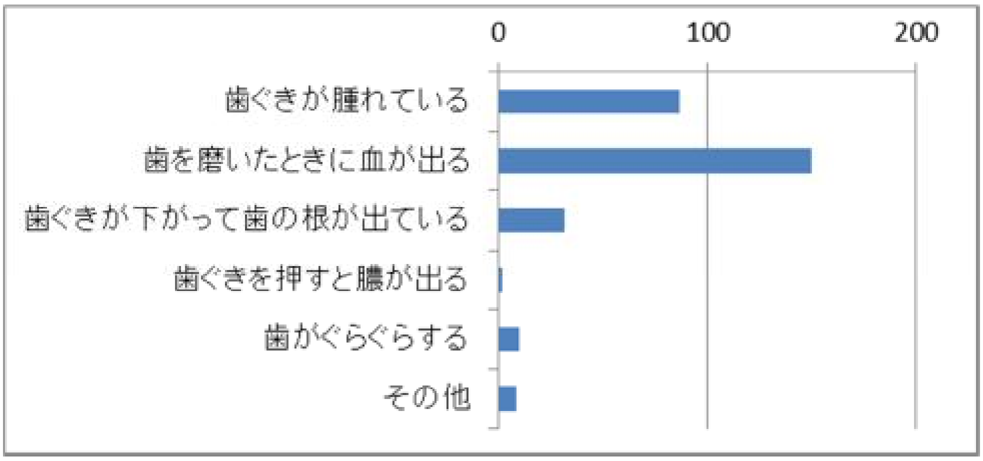


図４　歯ぐきの状態が気になる人が当てはまる症状（人）

表 19　自分の口の中を鏡でチェックする頻度

頻度	人数	(%)
頻度（１日１回位）にチェックする	324	34.7
ときどきチェックする	501	53.6
ほとんどチェックしない	109	11.7
合　計	934	100.0

表 20　歯周病を進行させる要因について

喫煙と糖尿病	人数	(%)
両方知っていた	233	25.4
喫煙のみ知っていた	306	33.3
糖尿病のみ知っていた	37	4.0
両方知らなかった	341	37.1
無回答	1	0.1
合計	918	

表 21　ひとりで食事する頻度

頻度	人数	(%)
ほとんど毎日・毎食	186	20.3
１日に２回以上	132	14.4
１日に１回位	193	21.1
数日に１回程度	181	19.8
ほとんどない	223	24.4
合計	915	100.0

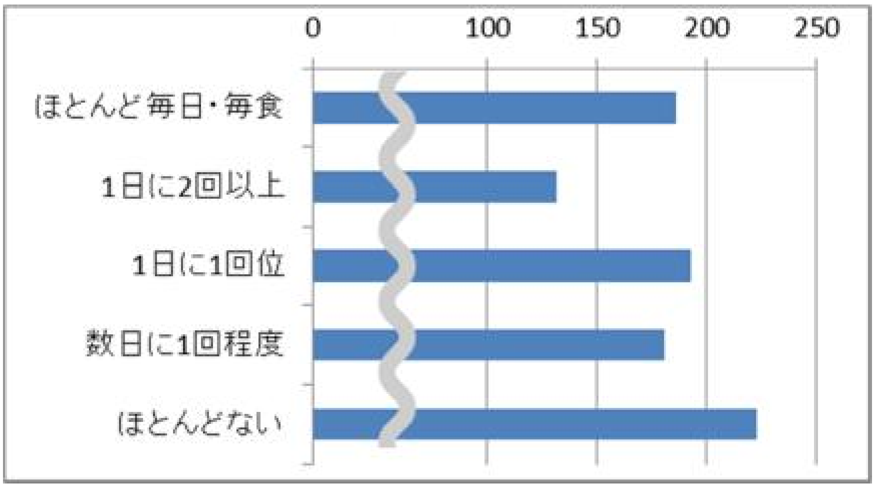


図５　ひとりで食事する頻度（人）

表 22　よく味わって、よく噛んで食べることについて

気を使っているか	人数	(%)
はい	508	54.3
いいえ	408	43.6
無回答	20	2.1
合　計	936	100

表 23　よく噛むことの全身への働きについて

知っているか	人数	(%)
はい	548	58.5
いいえ	368	39.3
無回答	20	2.1
合計	936	100.0

表 24　「いただきます」「ごちそうさま」を言う頻度

頻度	人数	(%)
ほとんど毎日・毎食	621	66.3
1 日に 2 回以上	101	10.8
1 日に 1 回位	91	9.7
数日に 1 回程度	35	3.7
ほとんどない	69	7.4
無回答	19	2.0
合計	936	100.0

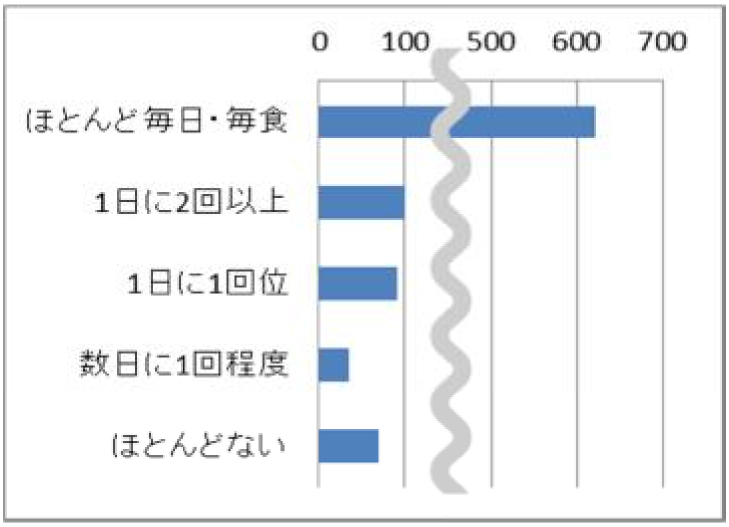


図６　「いただきます」「ごちそうさま」を言う頻度（人）

表 25　かかりつけ歯科医と一年以内の歯科健診について
（無回答を除く 915 人対象）

かかりつけ歯科医	一年以内の歯科健診					
	受診		未受診		小計	
	人数	%	人数	%	人数	%
持っている	261	--	171	--	432	47.2%
持っていない	120	--	361	--	481	52.6%
小計	382	41.7%	533	58.3%	915	100.0%

表 26　歯科健診の結果について
（この一年以内に歯科健診を受けた 382 人対象）

結果	人数	（%）
むし歯	240	62.8
知覚過敏	4	1.0
歯周病	4	1.0
顎関節症	12	3.1
その他	67	17.5
合計	327	

３ 事業評価

平成 27 年度事業では、府内に所在する大学・短大・専修学校 24 校に対し、歯と口の健康リーダー（地域保健担当歯科医師）が、学校での歯と口の健康づくりについての取り組みを調査するとともに、平成 28 年度に実施予定の「歯と口の健康サポーター養成研修会」への参加を促した。

歯と口の健康リーダーによる調査の結果（平成 28 年３月 31 日現在の集計）、平成 27 年度に「歯科健診を実施している」学校が 24 校中 0 校（平成 26 年度調査：46 校中 0 校）であること、「歯と口の健康サポーター養成研修会」でのアンケート調査の結果、学校で「歯と口の健康づくりに関する取り組み」を実施した学校が 16 校中 6 校（平成 26 年度調査：7 校中 1 校）という実態を把握できた。

以上より、現在、大学生等が、学校において「歯と口の健康」に関して意識を持つ機会が、多くないことがわかるとともに、学校で学生に対して、歯と口の健康づくりの意識づけを行う必要性が示された。

本年度、歯と口の健康サポーター養成研修会には 16 校 20 名の担当者が参加した。研修会を受け、すべての参加者（20 名）が、学校での歯と口の健康づくりの取り組みの重要性について認識し、参加者のうち 16 名が、学生に対する歯科保健の普及啓発の機会を設けることを検討すると回答した。このアンケート調査結果から、「歯と口の健康サポーター」が、学校において学生に対して意識づけを実践することが期待できる。

また、各研修会のワークショップでは、「学生の意識改革の為には視覚に訴えることが効果的だと思う」という意見が多く挙げられ、平成 26 年度に各学校へ配布していた普及啓発媒体であるクリアファイルは、学生の目につきやすく良いという好意的な意見が多数でた。このことからも、本事業で作成した普及啓発媒体は、学生の意識向上に当たり、有用性が期待される。

以上のことから、次年度以降も、「歯と口の健康サポーター養成研修会」を地域で実施し、「歯と口の健康サポーター」をさらに養成するとともに、「歯と口の健康サポーター」が学校で歯と口の健康づくりに関する取り組みを実施することによる学生の意識変化の状況についても評価していくことが望まれる。

また、学生の歯科口腔保健意識の変化を経年的に調査するため、平成 26 年度に引き続き学生を対象にアンケート調査を実施した。対象は、養護保健学科・医療秘書学科・歯科衛生学科・保育学科、リハビリテーション学科・健康科学学科の学生 936 名（表 14）である。

936 名のうち、約 85％の学生が何らかのトラブルや気になるところを抱えていると回答している（表 17 及び図 3）。口の中で気になるところで一番多かったのはむし歯だが、次いで歯並び、歯の着色、口臭と続き、学生が審美的な面を気にしていることがわかる。

また、歯ぐきの状態が気になると回答した学生は、145 名おり、全体の 15.5％を占める。歯ぐきの症状について質問したところ、16％が「歯を磨いたときに血が出る」と多くを占め、「歯ぐきが下がって歯の根が出ている」「歯がぐらぐらする」「歯ぐきを押すと膿が出る」といった回答も見られた（表 18 及び図 4）。

平成26年度時点で新1年生（リハビリテーション学科は新2年生）だった生徒の中で、歯周病を進行させる要因として喫煙や糖尿病があるということを両方知っていた人は12.0%しかいなかったが、平成27年度では29.6%と増加した。また、両方知らないと答えた人は平成26年度では50.6%であったが､平成27年度では34.3%と減少しており、１年間で知識として身についていることが示される。

かかりつけ歯科医を持っているかという質問に対しては、持っていると答えた人が47.2%であった（表25)。さらに、この１年で歯科健診を受けたかという質問対しては、41.7%の人が受けたと回答した（表25)。また、歯科健診を受けた382の中で健診結果がむし歯だったと答えたのが62.8%であり､次いでその他として答えた17.5%には「矯正」や「親知らずの抜歯」をはじめとした回答があり、青年期に多く見られる症状での受診が多かったことが示される。(表26)

かかりつけ歯科医を持っておらず、かつこの１年に歯科健診を受けていない人は361名に上るが、口の中で気になることが特にないと答えた人は132名しかいなかった。

平成26年度に歯科を未受診であった人は53.5%であったが､平成27年度は58.3%と4.8%増加しており、依然として歯科を受診していない学生が多くいることが分かる。

本調査により、口の中で気になることはあるものの、実際に歯科を受診していない学生が多数いることが予想される。そのため引き続き、学生を対象に、歯科口腔保健について正しい知識を身に着け、将来の歯の喪失を防ぐように働きかけることにより歯科健診の受診など、学生の行動変容を起こすことが必要だと考える。